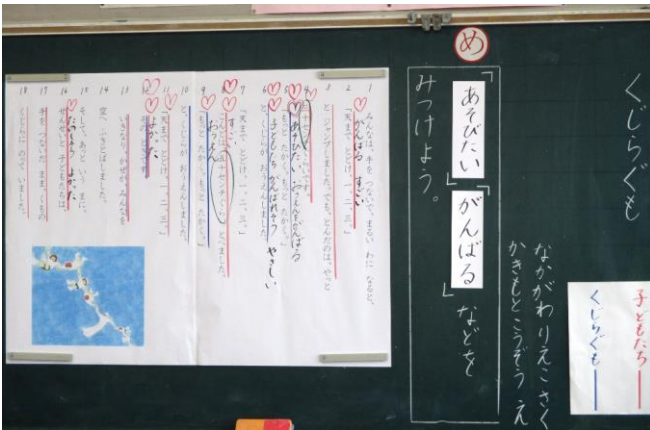


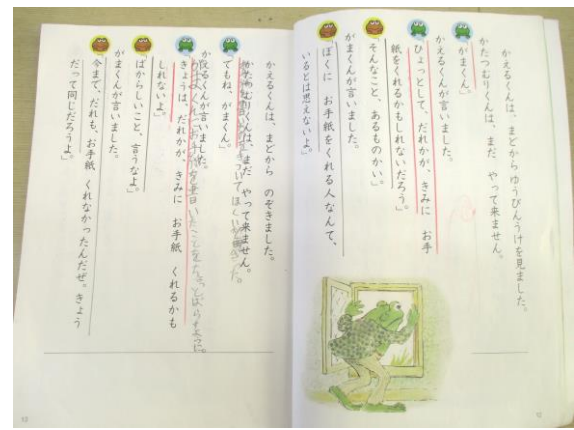
研究主題 **自分の思いや考えをもち、主体的に取り組む子どもの育成**  
 ～特別支援教育の観点を取り入れた国語科の授業づくりを通して～

1年生 伝達方法の工夫「視覚化」



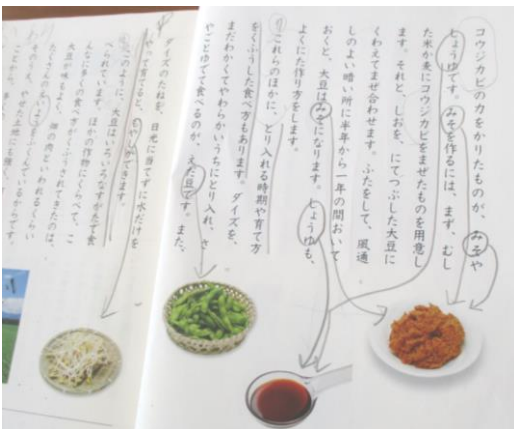
ワークシートと同じものを黒板に掲示することにより、板書とワークシートを一体化させて、学習の確認をしやすくした。

2年生 伝達方法の工夫「視覚化」



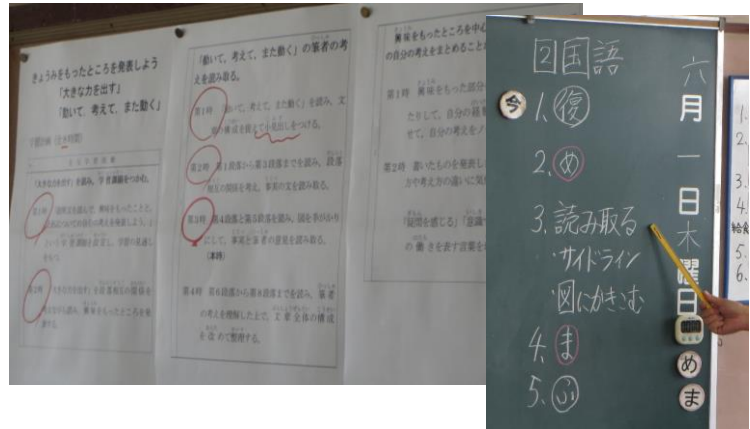
会話の主語を意識して読むことができるように、かえるくんの言ったことには赤の実線、がまくんの言ったことには黒の実線を引いた。

3年生 伝達方法の工夫「視覚化」



写真と本文が一致するように、食べ物の名前を囲み、矢印で食べ物の名前と写真を結ぶ活動を行った。

4年生 時間の構造化

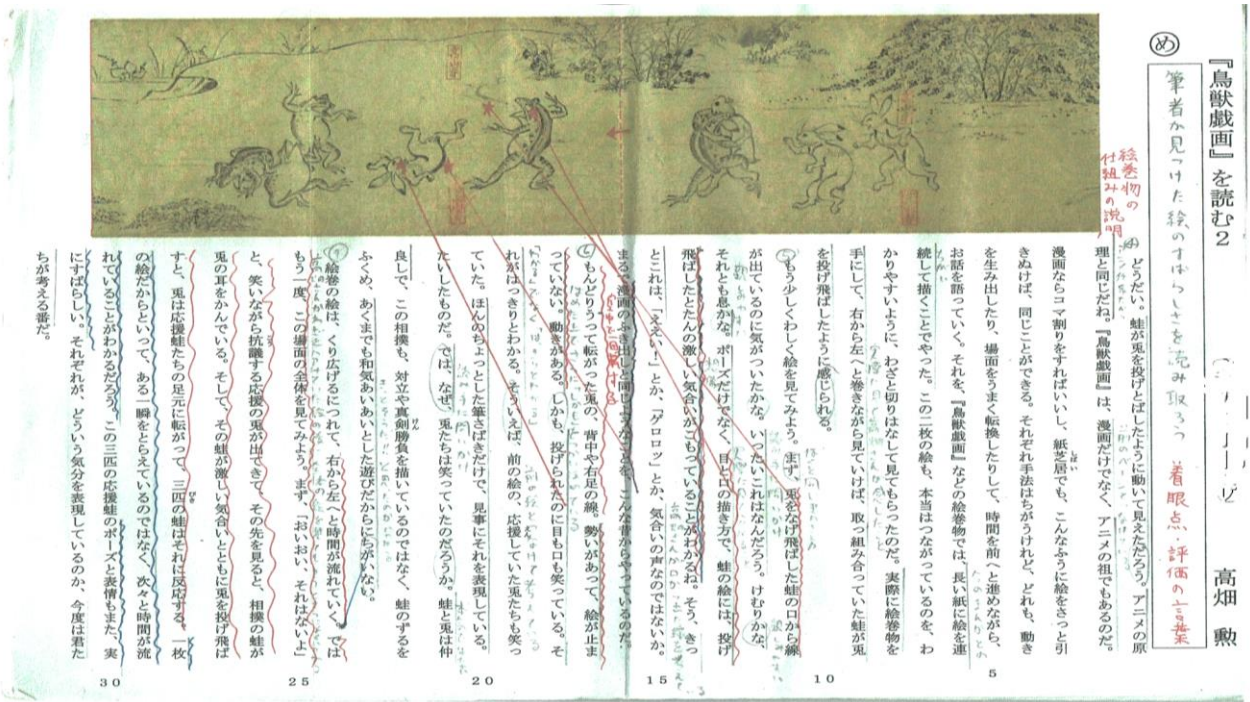


単元計画や1時間の学習内容を示して、児童が見通しをもって学習を進めることができるようにした。また、今日する学習に赤で丸印を付け、一目で分かるようにした。

5年生 参加の促進「共有化」

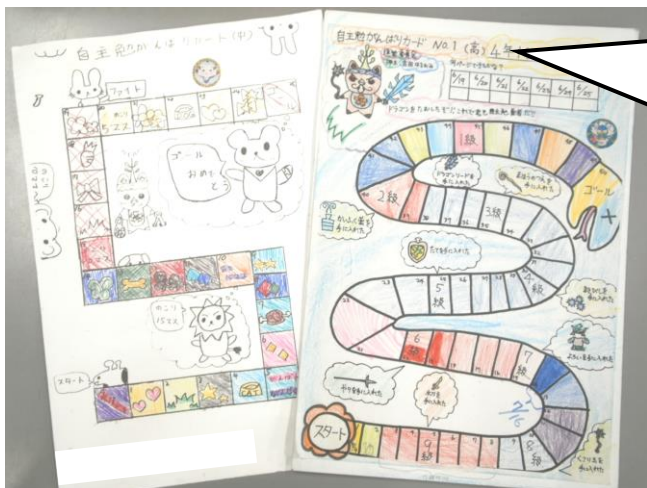


学習内容や児童の理解度に応じて、ペアで・全体で・自由に動いてなど、学習形態を変えて意見を交換することで、全員が進んで学習に取り組み、内容を理解することができるようにした。



事実と意見の区別をすることが難しいと予想された。そのため、児童は絵のすばらしさのところにサイドラインを黒で引き、教師側が板書において、着眼点（事実）には赤色、評価（意見）には青色で区別して斜線を引いた。

○運営委員会の児童が作成した「自主勉がんばりカード」



「持久走カードのような物を作ると、楽しく自主勉ができる。」という運営委員会児童の提案で始めた。  
1ページで1マス色を塗るので、努力の足跡ははっきり目に見える。  
色を塗ることが楽しみで、自主勉強を頑張る児童が増えた。

○自主勉強ノートの紹介

教室の後面に優れた自主勉ノートを掲示し、手本を常に見ることができるようにした。  
また、掲示された児童の励みになるように、定期的に交換した。

